

受験番号

2026年度 大学院心理学研究科「前期博士課程」入学試験 問題・解答用紙

専門科目〔臨床心理学〕

評 価	
--------	--

A 問 1

- 1) ICD-11
世界保健機関（WHO）が策定した国際疾病分類の第11版。
精神疾患を含むあらゆる病気の分類と診断基準が定められている。
- 2) 科学者-実践家モデル
心理専門職は、研究者としての科学的態度と臨床実践を両立すべきというモデル。
エビデンスに基づく実践と理論的応用の循環を重視する。
- 3) 神経発達障害群
発達期（幼少期）に現れ、神経系の機能不全により行動や学習に支障をきたす障害の分類。
自閉スペクトラム症、ADHD、知的能力障害などが含まれる。
- 4) 幻覚
実際には存在しない感覚刺激を知覚する現象。
視覚や聴覚の幻覚は統合失調症などで典型的に現れる。
- 5) 扁桃体
大脳辺縁系に属し、恐怖や怒りなどの情動反応の処理に関与する脳部位。
トラウマ、PTSD、不安障害などの情動障害との関連が深く、社会的行動にも影響する。
- 6) 転移
クライアントが過去の重要人物に抱いていた感情を、治療者や他者に向ける現象。
精神分析的治療における治療関係や洞察の鍵となる。

A 問 2

複数の心理検査を体系的に組み合わせて実施し、個人の心理的特性を多面的に評価する方法である。たとえば、知能検査、人格検査、情緒や適応の尺度などを組み合わせて使用する。その重要性は、単一の検査では捉えきれないクライアントの全体像を把握できる点にある。多角的な視点からの評価により、より妥当で信頼性の高い診断や支援計画が可能となり、臨床判断や介入方針の決定に有益である。

A 問3

認知行動療法（CBT）は、認知（思考）と行動の両側面に働きかけることで、心理的問題の改善を目指す心理療法である。CBTの基本的な前提は、「人の感情や行動は出来事そのものによってではなく、それに対する認知（ものの捉え方や考え方）によって影響される」という認知理論に基づいており、同じ出来事でも、それをどう解釈するかによって感じ方や行動が異なるという点に注目する。

CBTでは、まず自動的に浮かぶ否定的な思考（自動思考）に気づき、それが現実的かどうかを検討し、非合理的・歪んだ思考が見られた場合には、それをよりバランスの取れた思考に修正する。あわせて、回避行動や過剰な安全行動といった非適応的な行動パターンがあれば、それも見直し、より適応的な行動を実践することで、症状の軽減や行動の変容を図る。

CBTはうつ病、不安症、パニック障害、強迫症、PTSDなどさまざまな精神疾患に対して効果が実証されており、エビデンスに基づいた治療法として世界中で広く用いられている。通常、構造化されたセッションで短期間（8～20回程度）実施され、患者が治療者と協働しながら課題に取り組む。さらに、問題解決スキルやストレス対処法の学習を通じて、再発予防にも貢献できる。

認知再構成法、行動活性化、セルフモニタリング、エクスポージャー、課題設定、問題解決訓練、マインドフルネス、ACTなどなどの技法がある。

受験番号

2026年度 大学院心理学研究科「前期博士課程」入学試験 問題・解答用紙

専門科目〔臨床心理学〕

評価

C 問1

- ① 多重関係とは専門家がクライアントと二つ以上の役割を同時に持つことである。
- ② 親戚や友人、職場の同僚など密接な関係にある人やその関係者の心理支援を引き受けること、心理支援の業務外で要支援者と恋愛など個人的な関係を結ぶこと、など。
- ③ 支援者側が第三者性を失い客観的判断や適切な支援をしにくい、要支援者が支援者に利己的に利用されるリスクが高いなど。

C 問2

- ① カウンセリングの場合は支援者が専門家、相談者は非専門家であるが、コンサルテーションでは、支援者と相談者も専門家であり、異なる専門家間の相談行為である。
- ② カウンセリングは相談者個人の私的な問題や課題についての理解や成長の支援を目的とするが、コンサルテーションは相談者の仕事上での問題についての理解と対処能力とを高めることを目的とする。
- ③ カウンセリングは回数を重ねた自己成長のための長期的支援、コンサルテーションは具体的な問題に焦点化して即応的見解を見出す短期的支援が通例である。